



## ヘリコプターは大人気

17回目を迎えた「緑の村子どもまつり」が5月4日、5日の両日、鳥居の緑の村緑地広場を主会場に行なわれました。4日、5日とも天候に恵まれ、出足は好調。2日間で延べ2千人の家族連れが押し寄せ、宝

さがし大会、ピエロパフォーマンスショー、アームレスリング大会（腕相撲）、など楽しんでいました。

中でも、3回目となるヘリコプターの体験搭乗＝写真＝は大人気で、約350人の人たちが遊覧飛行を楽しみました。



## 『4年後には帰ってきて』

四月三十日、今年も黒崎小学校（佐々木一夫校長、児童十八人）では、普代川河口に自分たちでふ化させてきたサケの稚魚約三千六百匹を放流しました。昨年十二月、自分たちで人口授精、ふ化させてきた稚魚は約五匹に成長。深渡宏村長は「大きくなって、普代の川に戻ってくるようみんなと一緒に心から祈りたいと思います」と子どもたちを激励し、宮城貞子教頭は、「手塩に掛けて育ててきたサケの稚魚を優しく

放流しましょう」と結びました。「4年後には元気に帰ってきてね」と、初めて川を経験する稚魚たちを気遣いながらみんなで声を掛け、旅立ちを見送りました（写真）。

同校の放流は今年で二十年目になります。

サケ放流後、全員で供養塔前から普代浜海岸に掛け「きれいな水辺でサケを迎えようね」と無事に帰ってくるように祈りを込め、清掃活動を行ないました。

## 普代バイパス 第1トンネルもついに貫通

四月二十二日、普代村国道四十五号普代バイパス第一トンネルは、掘削開始の合図とともにロードヘッターと呼ばれる大型機械が始動し、東側の入り口が貫通しました（写真右）。

同トンネルは幅員十五、五、延長百十八、この夏完成する予定です。工事の現場代理人である三浦郁夫さんは「ロードヘッター掘削で六十

八、地点まで掘り進んだところ岩盤が硬く、発破は使いました。発破は振動など伴いますが、地区住民の方々の協力が無事貫通することが



普代バイパス第一トンネル貫通を見守る工事関係者ら

でき、心からお礼いたします」と感謝の気持ちを表していました。「普代バイパス」工事計画については、「広報ふだい」平成十二年六月号で詳しく紹介し、平成十三年九月号は普代バイパス第二トンネル掘削開始に先立ち安全祈願祭、同十月号では、普代バイパス起工式、平成十四年三月号で、普代バイパス第二トンネル貫通式について紹介しています。」